

## 「Torneträsk (冬のトーネ湖)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

スウェーデンの最北部に Torneträsk (トーネ・トレスク) という湖がある。かつてスカンジナビア半島全体を氷河が覆っていた時代に、その氷河の動きが硬い岩盤を削ってできた、細長い湖沼だ。従って長さは 70km もあるが、幅は最大でも 11km、狭いところでは 4~5km しかない。最深部の水深は 160m を超える。



「北極圏のキルナ空港」 驚くべきことに、12月の期間限定で東京から直行便が飛ぶことがある。

付近の一番近い大きな街は Kiruna (キルナ) である。こんな北緯 70° の北極圏に大きな街があるのは、良質の鉄鉱石を大規模に露天掘りできるからである。トーネ湖の湖畔には大きな街はなく、唯一「アビスコ」がスーパーマーケット (ICA=イッカ) のある街だ。



「トーネ湖の地形図」(スウェーデン官製地形図)  
○が湖畔唯一の街「アビスコ」 ○が氷河によってつくられた山「ラポテン」

このあたりは、冬の間氷点下 30°C 以下になる。従ってトーネ湖も完全に結氷し、分厚い氷に覆われる。徒歩やスノモ (スノー・モービル) はもちろん、自動車でも走っても大丈夫と聞く。私はこの凍った湖の上を、たった一人で歩いたことがある。



### 「トーネ湖の風景」

遠くにアビスコの街と、このあたりのシンボル「ラポテン山」が見える。この日は気温が高いほうで、氷点下 20°C だった。もちろんエスキモー並みの重装備。



「トーネ湖の真ん中で」 静寂の中に時も静止した。

歩き始めた時は明るかったが、2 時間歩いて、湖の真ん中に着いた時は、すっかり真っ暗になってしまった。押し迫る圧倒的な孤独感。私の人生の中で、最も人の気配から遠ざかった一瞬だった。